

大麦情報(4号)

令和5年3月1日
 砺波農林振興センター
 JAなんと営農部

今年は2月以降積雪が少なく、消雪期が平年よりやや早くなっています。ほ場に雪解水が停滞しないように、早急にほ場の排水状況を確認しましょう。

- ①排水対策を徹底しましょう。
- ②分施肥体系の場合は追肥を行いましょ。

雪解後、ほ場に水が多く停滞し、根が腐り、低収となった(H30)



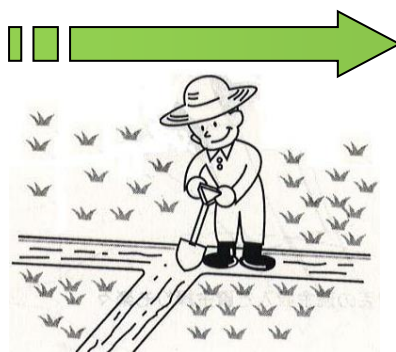
額縁排水溝	無	有
根量	3.2g	15.3g

図 止葉展開期の根の状況 (H30 南山田地区)

1 排水対策

排水不良のほ場では根が腐り、登熟不良となります。

すぐにほ場の排水状況を確認し、雪解水などが停滞しないように溝を手直ししましょう。



溝を連結し、排水を促す

2 消雪後追肥の施用 ~追肥前に排水を良くし、肥料効率を高めましょう~

(1) 分施肥体系 (基肥: 「基肥30」)

施用時期 (予想: 3月3~6日)	莖数	硫安の施用量
ほ場に停滞水がない状態で 施用直後に多雨や降雪が予想されない頃	少~並	20kg/10a
	多※	15kg/10a

※莖数: 多は、麦が繁茂し、土が見えないようなほ場(㎡当たり1,200本以上)。

※一部に残雪がある状態で追肥した場合、雪が残っていた箇所は肥料の効果がないため、消雪後に補正施用してください。

(2) 肥効調節型体系 (基肥: 「Jコート大麦48号」及び「エコ大麦44号」)

莖数が多いなど生育量が確保されています。倒伏が懸念されるため、追肥はしないでください。なお、葉色が極端に淡い場合などはご相談下さい。

お問い合わせ: 砺波農林振興センター(32-8147)またはJAなんと営農部(62-0261)